

第 14 回 WI2 研究会 学生参加報告

平成 21 年 3 月 23 日～ 25 日

1 はじめに

2009 年 3 月 23 日 (月) から 25 日 (水) にかけて、島根大学松江キャンパスに於いて、第 14 回 WI2 (Web Intelligence and Interaction) が開催された。今回は電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ主催の HCG シンポジウム内で開催された。研究会へは一般が 62 名、学生が 15 名の合わせて 77 名の参加があった。本報告では、第 14 回 WI2 研究会の概要について述べ、研究発表の中で筆者らが特に興味深いと感じたものをいくつか紹介する。



図 1 会場の様子

2 研究会概要

今回の WI2 研究会では 17 件のロング発表と 9 件のショート発表の計 26 件の発表が行われた。具体的には以下のようなセッションがあり、さらに 1 件の特別講演が行われた。

1. ユーザコミュニティ (ロング 4 件)

2. SNS とコンテンツ (ショート 5 件)
3. 文書解析 (ロング 2 件)
4. 文書検索 (ロング 3 件)
5. モバイル環境 (ロング 2 件)
6. 情報抽出 (ロング 3 件)
7. システム開発と分析 (ショート 4 件)
8. ユーザ行動の調査 (ロング 3 件)

3 特別講演

本会の特別講演として、「オブジェクト指向言語『Ruby』の開発」という題目で、松江市在住のまつもとゆきひろ氏による講演が行われた。動的なプログラミング言語の特徴である「簡潔・柔軟・生産的」を満たす言語を作るという目的をもって Ruby の開発を行ったまつもと氏は、Ruby の簡潔さにコンパイラの指示が不要であること、柔軟さに自由度の高さ、生産的であることにプログラムの思考を妨げない簡単な記述でプログラムが書けることを挙げ、Ruby のアジャイル言語 (俊敏な言語) としての特長について説明された。昨今のソフトウェアは牛丼化しつつある、というユニークな表現を用いながら、プログラミングに求められる俊敏性について言及され、Ruby の生産性や変化への対応性などをふまえながらソフトウェアが持つべき思想について、講演された。質疑応答の中では、昨今の「若者の理系離れ」についての議論も行われ、松江市では中学生が対象の Ruby の講習会や、高校の教育過程の中で Ruby を用いる授業があるという例から、言語の選択はともかく、プログラミングでわくわくするような感覚を多くの人に感じてほしいという話で締めくくられた。



図2 まつもと氏による特別講演

4 一般講演

一般講演において筆者らが興味を持った発表について取り上げる。

武吉氏ら (KDDI) による「Web コンテンツ作成支援のためのリンク目的を意識したリンク先推薦システムの実装と評価」では、ユーザがウェブログ等においてリンクを張るという行動の補助を目指して「リンク目的」を設定し、その目的に適合するようなリンク先を推薦、提供するという研究をデモもふまえて講演された。質疑応答では、予測モデル生成のために用いた尺度の定義についてやユーザに提供するインターフェースの改良提案などが討論された。

深澤氏ら (NTT ドコモ) による「異種複数の履歴に基づく行動ターゲティング」では、オントロジを用いて行動のキーワードの対応付けを行い、ユーザのモデルに合致するキーワードをトップダウン的に収集できるシステムの開発を行ったという研究を講演された。質疑応答では、行動に関するキーワードの複雑さについて言及され、それらが簡単な階層構造では表現しきれない関係を持っていることについて討論が繰り広げられた。

筆者らは文書検索と文書解析のセッションにおいてそれぞれ発表を行った。初めての研究発表で至らない点が多かったにもかかわらず、多くの指摘や意見を頂くことができ、今後の研究の方向性を見出すことができた。

5 懇親会

今回の懇親会は松江市街地のレストランバーリバービューにて行われた。洋食バイキングを囲みながら、多くの研究者との交流を持つことができた。筆者らは、初めて行う研究発表の前夜ということもあり緊張していたが、多くの研究者の方から発表のアドバイスや研究に関する意見をいただくことができ、次の日の発表への励みとなるものであったと共に、非常に有意義な時間を過ごす事ができた。



図3 懇親会の様子

6 おわりに

今回の WI2 研究会は初めての三日間開催で、多くの参加者が集まった。今回の研究発表では特に、今までは手作業で作られていたオントロジを実際に活用していくような研究が増えており、今後は情報検索の分野においても、そのような知識を用いる研究が一つの流れとなる可能性があるように感じた。今後の WI2 研究会でそのような発表が増えることは筆者らにとって非常に興味深いことである。また、特別講演でのまつもと氏の話は、普段は聴講できないような貴重な意見を間近で聞くことができ、今後の研究において欠かすことのできないプログラミングに対する考え方を見直すことができた。今後も WI2 研究会に積極的に参加し、多くの研究者の方々と交流を深めていきたい。

(田村航弥, 伊藤ゆかり/同志社大学文化情報学部)